

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 30 年度

事業所番号	2770700678		
法人名	社会福祉法人 博光福祉会		
事業所名	寿里苑フェリスグループホーム		
所在地	大阪府河内長野市加賀田885-2		
自己評価作成日	平成 30年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成 31年 2月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2770700678-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2770700678-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 31年 1月 30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは老人保健施設・デイケアセンター等に併設しており、家庭的な雰囲気は他事業所と比べると劣るかもしれませんが、併設施設ならではの様々な行事を企画し参加して頂く事で入居者様の笑顔が絶えない事業所作りを行っています。また、居室からは沢山の自然を眺める事が出来、四季の移り変わりを感じる事が出来ます。自慢できることは多くありませんが、職員は入居者の立場に立ち誠意を持って行動し、入居者様が笑顔で生活できるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立から33年、地域に選ばれる施設を目指す社会福祉法人が、介護老人保健施設の2階に、デイケアセンターと併設して設立した1ユニット9名のグループホームで、開設から16年目を迎えます。河内長野市南部の、山々に囲まれ、緑豊かで自然環境に恵まれた地域にあります。ホームの名前フェリス(スペイン語で「FELIZ」)は「幸せ」をテーマに、施設に関わる全ての人が幸せを感じられることを願っています。長い間利用者と共に過ごす愛犬が利用者の気持ちを和ませ、職員は利用者が「明日が楽しみになるような生活」「日々、表情が優しくなるようなケア」を心がけながら、一人ひとりの個性を尊重し、個別の生活ペースに合わせた援助をしています。利用者の穏やかな雰囲気と表情から、生活の落ち着きが伺え、家族も安心できる暮らしの場となるように、心により添う支援に努めています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・グループホーム理念の実践を常に心掛けています。地域の方々やご家族の理解と協力を得ながら、入居者本位の支援の実践を行っています。	ホーム開設時から、『①皆様の立場に立ち、考え、話し合いを持ち、大切な家族の一員であることをお約束します。②私たちは誠意を持って行動し、努力することをお約束します。③地域・家族・あらゆる関係機関の協力を頂き、皆様のいつでも安心できる住まいであることを約束します。』を理念として額に入れて、職員、利用者・家族、来訪者の目に触れるように入り口に掲示しています。利用者の様子を伝える「ローズマリー通信」にも掲載して共有を図っています。職員は理念を基に、地域の理解を得ながら、利用者一人ひとりと関わるケアの実践をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣への買い物や、毎日の散歩にて近隣住民の方との関わりを持っています。地域の看護学校の実習の受け入れ・中学生の職業体験・小学校との交流会を定期的に行っています。老人保健施設やデイケアセンターと併設している事で地域のボランティア様の来苑の機会にも恵まれています。	自治会が毎年主催している夏祭りやフェスティバルに、たこ焼きの模擬店等で参加しています。中学生の職業体験を受け入れ、利用者は一緒に買い物に行ったり、体操や歌の会を楽しみました。傾聴ボランティアも毎週訪問があり、利用者の楽しみになっています。散歩で地域の人と関わり、散歩の途中に同法人の地域密着型特別養護老人ホームの喫茶やサービス付き高齢者住宅のオレンジカフェに立ち寄り交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	事業所に関する事だけではなく、施設内の見学や認知症に関する相談を随時、受け付けています。地域の中学生の職業体験や看護実習生の受け入れも行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では定例の報告だけでなく、意見交換の場を設ける事で、近隣地域の現状や時事問題について話し合える大変意義のある機会となっています。</p>	<p>運営推進会議要綱にもとづき、2か月に1回会議を開催しています。会議には、市の職員、地域の方、家族、ボランティアが参加しています。会議内容として、ホームからは利用者の状況やケア等の取組みを報告すると共に、ホーム通信を配布し利用者の暮らしぶりを伝えています。参加者と近隣地域の現状やホームの状況を話し合う良い機会になっています。会議録やホーム通信は家族に送付すると共に、自由に閲覧できるよう玄関に配備しています。</p>	
5	4	<p><b>○市町村との連携</b>                      市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>分からない事があれば市の担当者からアドバイスを頂いています。市の介護保険課の職員の運営推進会議への参加もあり、報告や相談の場としています。</p>	<p>市の担当課とは日頃から連携をしており、市が主催するグループホーム部会にも参加しています。運営推進会議にも毎回いきいき高齢課や介護保険課等の関係各課の出席があり、情報提供や助言を得ています。市が主催する介護フェスタ「いきいきフェスタ」に利用者や歌の会で参加しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>                      代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人全体として定期的に身体拘束や虐待に関する勉強会を実施しています。常用している玄関は開放が可能な時は開放させて頂いています。感染症の流行時期などはリスクを考え施錠を行う事はありますが、外部との行き来は出来る限り可能な状態を開設当初より保っています。</p>	<p>ホームでは開所以来、身体拘束をした事例はありません。併設の施設と合同の研修会を行うことや、月1回勉強会で利用者の尊厳を守るケアについて確認し職員は周知しています。ホーム入口は、併設するデイケアセンターと同じフロアにあり、事務所の大型犬が出入りすることで施錠していますが、入口のドアの半分は透明でホームとデイケアセンターの双方から様子を見ることができ、開放的です。利用者がドアをたたくと、事務所の職員がすぐに開けることが定例化しています。事務所で一緒にコーヒーを飲む利用者もいます。ホームのベランダは自由に出ることができます。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>                      管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての勉強会を定期的開催する事で、学ぶ機会を設けています。職員間の会話内容やストレスチェックにて職員の心身の状況を把握し、虐待防止に繋げています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については勉強会にてのみですが学ぶ機会を設けています。実際に、成年後見制度を利用されている入居者もおられ、職員も勉強させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は不安や疑問を解消するように、ご家族と話をする機会を設けています。ご家族に協力して頂ける点をお願いし一緒に入居者をサポートしていけるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時には必ず声を掛けさせて頂いています。ご家族からの意見や希望については職員間で共有し、ケアへと繋げています。</p>	<p>玄関に意見箱を設置していますが、意見が入ることはありません。利用者の家族が頻回に来訪して利用者と面会する際に、職員は積極的に意見を直接得られるよう努め、運営に反映するようにしています。家族が行事や「母の日バーベキュー」に参加して、ホームに対する家族の理解や協力が得られています。また、「ローズマリー通信」で利用者の日常風景やホームでの生活の写真を掲載して、利用者の暮らしの様子を家族に知ってもらえるようにして、職員は家族と良好な関係の構築ができています。利用者の思いや要望は日常の関わりや会話の中で把握に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b>                      代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者には随時、報告や相談を行っています。毎月の会議にも管理者の参加があり職員からの意見や要望について話を聞いて頂き、アドバイスを頂いています。</p>	<p>管理者は職員会議を、職員から意見や要望を出してもらう機会としています。会議の中で認知症、高齢者の理解等の勉強会を行い、認知症ケアに関する専門的知識を身につけ、職員のスキルアップと、利用者の生活の質の向上に繋げるケアに努めています。職員から出された意見で調理実習の取り組みや便利なものの希望を出してもらい、働きやすい環境を作り、職員のモチベーションアップを図っています。年に1回職員アンケートを実施して、法人内異動の希望などを聞き運営に反映しています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>規模の大きな法人ではありますが、代表者である理事長は定期的に現場に足を運び、入居者様への挨拶や職員に対する労いの言葉を掛けて下さりませず。認定こども園の園長も兼任されている事から園児と入居者との交流の機会を設けて下さっています。サービス提供のアドバイスなどもあり、職員のモチベーションアップに繋がっています。</p>		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市のグループホーム部会での勉強会や他事業所の勉強会などに参加しています。また、個人の力量に合わせた指導を行い職員の育成に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河内長野市では年に2回グループホーム事業所全体の部会を開催しています。部会では勉強会や情報交換を行い互いの事業所のサービスの質の向上に取り組んでいます。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人だけでなく、ご家族や関係機関とも連携する事でスムーズなサービスの導入が可能となるように努めています。その際には当グループホームで出来る事の限界も伝えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時には、どのような不安を持たれているのか、困っている事や要望についての話し合いの時間を設けています。面会時にも声を掛けさせて頂き一緒に入居者をサポートできるような関係作りを実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生命を守る為に重要な事項と生活を守る為に重要な事項を職員間で共有し、サービスの導入に入ります。老人保健施設併設の特性を生かした支援も視野に入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で出来る事は時間が掛かっても行って頂き、過剰な介護を行わないように注意しています。入居者にはそれぞれの役割を持って頂き、その人らしい生活が営める事に重点を置いた関わりを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なくしては入居者を支える事は難しいです。面会や外出、買い物などご家族にしかできないことについては協力して頂いています。ご家族と共に悩み、喜びを共有できるように良い関係の構築に努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様にとって馴染みの場所への外出や行きつけのスーパーへの買い物などを行っています。併設する老人保健施設からの入居者もおられ、職員や施設利用者に会いに行かれ交流する機会を設けています。	家族の訪問も多いことで、外泊や行きつけのスーパーへの買い物、法事、墓参り等に出かける利用者もいます。併設の施設からホームに入居した利用者もあることから、ホーム職員は併設の施設利用者や職員に会いに行く機会を作るなど、馴染みの関係を大切に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり、好まれる環境が違いますのでその方の意向に沿った支援に努めています。お一人が好きな方でもレクリエーションや行事を通じて入居者同士が関わり合えるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移られても、ご本人やご家族と関わりを持たせて頂いています。契約を終了した方でも、ご家族より近況や今後の方向性について相談したいと連絡を下さり、お付き合いをさせて頂く事があります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりから入居者の思いを把握するように努めています。入居者だけでなくご家族の意向や思いを大切にした支援を心掛けています。	利用者の思い・意向は日常のケアの中での言葉や表情から読み取り、確認して把握に努めています。特に入浴時等の1:1の関わりの時に、フロアでは話せないことを聞いて、利用者を理解するように努めています。意思疎通の困難な時には、家族等からこれまでの生活歴や意向の情報を得ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの導入前に面接などで得られる情報と、生活の中で得られる情報の把握に努めています。面会時にご家族に生活状況を伝えた際に得られた情報も大切にし、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの日常生活の個別性を大一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常生活の個別性を大切にしながら関わりを持っています。日々の関わりの中で心身の状態や残存能力の把握に努めています。過剰な介護にならないように注意しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者個人の主観で計画を立案せず、職員の多くの主観の中から客観性を見出し計画に反映しています。毎月モニタリングを実施し、プランの見直しを行っています。出来ない事より出来る事に目を向けて、開設からの作って嬉しい、もらって嬉しいプランをモットーに取り組んでいます。	介護計画は本人の思いの把握や家族からの意見を得て、職員会議の中で利用者個別の具体的な課題の抽出、モニタリングによるケアの評価を基にして3か月に1回見直しを行っています。また、利用者の状態の変化に即して随時見直しを行っています。残存機能の維持と新たに出来ることを見だし、自立支援に繋がる計画書となるように取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>具体的に事実をありのまま記入するように努めています。記録の記入については職員間に多少の力量差はありますが入居者を観察し、記入するように心掛けています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ニーズに対しては出来る限り対応できるように努力しています。入居者やご家族が安心して生活できるように支援の在り方を考えています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域に外出する事で入居者にとって良い刺激となっています。オレンジカフェへの参加や地域の行事への参加を計画し豊かな暮らしの提供に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医は毎週来訪しています。入居者との関わりを大切にしながら診察を進められ、入居者も安心されています。受診や入院時には迅速に指示を下さり対応して下さっています。歯科医には必要時の往診だけでなく、年一回の検診も行って頂いています。</p>	<p>利用者・家族の意向を確認し、希望する医療機関への受診を基本としています。またホームの提携の医療機関を主治医として、週に1回の往診を受けています。精神科の月2回の往診や歯科医の往診・検診と利用者は必要に応じた診療を受けています。併設の介護老人保健施設の医師や看護師との連携も図れ、夜間や緊急時は、提携医療機関の医師や看護師との連絡体制も整っており、適切な医療を受けられることが安心に繋がっています。</p>	
31		<p><b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>併設デイケアセンターの看護師に毎日の状況を報告し、適宜アドバイスを貰える関係にあります。夜間や緊急時には併設の老人保健施設の看護師に相談することも出来、早期対応に繋がっています。</p>	/	/
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力病院とは入退院の際、スムーズな連携をして頂いています。日程調整だけでなく緊急時における円滑な受け入れまで、日頃からの協力があります。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者の状況に応じて、主治医・看護師を交えて相談し必要に応じてご家族様へ状況の説明を行っています。終末期に向けた支援としては、主治医・看護師・介護士・本人・ご家族と話し合いを持ち、本人・ご家族にとって安心できる支援を提供できるように努めています。</p>	<p>入居時に「急変時の延命等の意思確認書」「重度化した場合の対応に係る指針」を示して説明を行っています。ターミナルケアの経験があります。重度化や看取りの際には、提携医療機関の主治医、看護師、職員、家族を交えて話し合いの機会をもち、利用者・家族の意向を尊重する支援を行っています。</p>	
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員会議の時間を利用しての勉強会を実施する。また、併設する老人保健施設の看護師を中心にした勉強会にも参加しています。</p>		
35	13	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時マニュアルを作成しています。また、年に2回は入居者にも参加して頂き、避難訓練を実施しています。災害備蓄品や飲料水の保管も行っています。</p>	<p>防災マニュアルを作成し、年2回の訓練を行っています。ホームだけでは手薄となる夜間帯も、併設施設の複数の職員の協力体制ができていて、安全に繋がっています。災害用備蓄を建物全体で用意し、栄養士が管理しています。地域の福祉避難所であることも考え合わせた備蓄になっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者にとって身近な存在でいられるように心掛けています。一人ひとりの性格にも配慮しながら声掛けを行っています。マナー研修・虐待防止・認知症についての勉強会を実施しています。	プライバシー保護について、職員は法人主催の研修会に参加して、接遇・マナーを学び、日々利用者に対応しています。全居室には、トイレ、洗面台があり、プライバシーが守られやすい設備が備わっています。排泄の誘導時には特に気を付けて、言葉かけは羞恥心に配慮して行うようにしており、職員は利用者の尊厳に配慮しながら柔らかい言葉かけを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に自己選択・自己決定をして頂けるように声掛けを行っています。困難な際は職員にて対応しますが確認の声掛けを必ず行います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務など職員の都合ではなく、あくまで入居者を中心とした生活の提供を心掛けています。入居者の生活ペースに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は入居者に衣類を選んで頂き、おしゃれを楽しんで頂いています。衣替えなどはご家族に協力して頂いています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は三食とも併設施設厨房にて調理された物を提供しています。入居者と共に配膳・盛り付けを行っています。また、週に1～2回は、おやつ作りや調理実習を行っています。</p>	<p>食事について、炊飯はホームで行い、副菜は併設施設の厨房で調理したものを提供しています。食事どきになると炊飯の匂いが漂っています。利用者は盛り付けや配膳を進んで行き、お米とぎはやりたい方が多いため順番制にしています。週1～2回のおやつ作りや、母の日のバーベキュー等家族と一緒に調理し、ともに食す機会にしています。「ホームの食事でも元気に過ごすことができる」と話している利用者もいます。日当たりの良い広いベランダでティータイムを楽しんでいます。</p>	
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設する老人保健施設の管理栄養士に栄養管理や献立についての相談をさせて頂き、アドバイスを貰っています。毎食の食事量・水分量を記入し摂取状況やADLに応じて食事形態の変更や自助具の使用を随時行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し、義歯の手入れが困難な方については職員にて手伝いをさせて頂いています。歯科医による検診を年に一回、全入居者を対象に行っています。歯科医は急な要請にも対応して下さっています。常に相談できる関係を構築できています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや水分摂取量に注意し、誘導や声掛けを行っています。可能な限りトイレでの排泄が行えるように過剰な介護は行わず、残存機能の維持に努めながら自立に向けた支援を行っています。	排泄チェックにより利用者ごとのパターンの把握に努め、できる限りトイレでの排泄ができるように支援を行っています。トイレが利用者の個別の居室に設けられており、プライバシーにも配慮しています。パッド・リハビリパンツ・布パンツと一人ひとりに合った選択をして、可能な限り自立に向けて支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するための運動量の確保や、ヤクルトの提供など個人に合わせた対応も行っています。日頃から水分や食事の摂取量に目を向け、便秘時には主治医や看護師に相談し対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の体調や身体状況に合わせて、出来る限りご希望の時間や曜日に入浴できるように支援しています。湯の温度にも注意しながら安全な入浴に努めています。	お風呂は2～3名が一緒に入浴できる大きさですが、一人ずつゆっくり入っています。週に少なくとも2回は入浴できるように働きかけています。回数や時間帯は出来る限り利用者の希望に沿うようにしています。必要に応じて2人介助や併設施設の機械浴での入浴も可能で、安全に配慮しています。ゆず湯や菖蒲湯等で季節を感じながら入浴を楽しめるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっていますが、居室にて過ごされる方やフロアにてテレビを観られる方など、個人の生活習慣に合わせた時間を過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の副作用や効果については主治医に確認し、職員間での情報の共有に努めています。内服後の状態変化にも着目し、普段の支援にも繋げています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の安全に配慮しながらも出来る限りの事は、ご自身で行って頂いています。出来る事、したい事の実現に向けて職員間での協力を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>近隣への散歩や買い物だけではなく花見や初詣などの入居者希望の外出先を聞き、希望に沿った外出支援が出来るように努めています。</p>	<p>日常的にグループホーム近辺や近くの公園に散歩しています。近隣の同法人の地域密着型特別養護老人ホームの喫茶やサービス付き高齢者住宅のオレンジカフェにも散歩の途中に立ち寄り、コーヒーを飲み楽しんでます。スーパーへ好みのおやつを買い物に行ったり地域行事に出かけたりしています。また、法人の一泊旅行に参加する利用者もいます。ホームの窓からも見える桜並木への花見の時等には、職員と季節を感じられるような会話をしたり、以前の買い物の時の話なども思い出しながら、外出を楽しめるような支援をしています。</p>	
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出時の買い物や自動販売機の利用、売店や訪問ローソンの活用を行っています。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙のやり取りは入居者の希望時に、いつでもする事が出来ます。ご家族の協力も得られています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい家庭的な環境作りを心掛けています。フロア内の飾り付けは季節に応じた物を入居者と共に作成したり、ベランダにて花を育てる等、居心地の良い生活空間の提供に努めています。	5階建ての介護老人保健施設の2階部分に併設された、ホームの生活共用空間の居間兼食堂は明るく、ゆとりのある広さがあります。掘りごたつになっている畳のコーナーで、利用者は壁に飾る作品を作ります。ベランダのプランターに花や夏野菜を植えて楽しみとなっています。窓の外には山々を眺められ、春にはお花見に行く桜並木の道や田園風景が広がっています。長い間一緒に生活している愛犬が利用者の癒しの存在となっています。ソファでゆっくりくつろぐ利用者を、職員が家族のように温かく見守りながらより添って、家庭的な生活感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はベランダ・ソファ・食堂などがあります。入居者同士が会話を楽しめたり、テレビを観られたりと思いきいに過ごせる環境を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の協力もあり、使い慣れた家具の持ち込みや好みの物の配置が行えています。入居者の所持品については破損の無いように大切に取り扱いさせて頂いています。</p>	<p>居室には各部屋にトイレ、洗面台があります。机として使ったり、テレビを置けたり、衣類も収納できる家具やベッドが備えられています。利用者は入居前に愛用していた調度品や家族の写真などを自由に持ち込み、落ち着いた居住空間にしています。一人ひとりの生活スタイルに合わせた居室作りを尊重して支援し、利用者が穏やかに居心地良く生活できるようにしています。</p>	
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者一人ひとりの残存能力に目を向け、出来る事・出来ない事の見極めを行い、過剰な介護にならないように気を付けています。安全面への配慮を行いながら出来る事は自身で行って頂き自立した生活に繋げています。</p>		